

( 様式 )

#### 第 4 回かわにし市民会議 議事メモ

班	4 班「文化・歴史の活かし方」
コーディネーター	伊藤 伸
ナビゲーター	宮崎 一郎
説明担当者(自治体)	なし
日時	2019 年 8 月 24 日(土) 13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西役所地下 1 階 B02 会議室
その他	参加者数 20 名

#### 趣旨・概要

「改善提案シート」中間とりまとめについて  
歴史を活かしたまちづくりについて、ナビゲーターからの説明  
歴史・文化の魅力を伝える手段、方法について

#### 総括

##### 班発表者総括

川西市には清和源氏という大きな歴史があり、市民が誇りを持つための強みや観光資源にもなることがこの会議を通してわかってきた。川西市に移り住んだ人だけでなく、長年住んでいる人が改めて発見したとか初めて知ったというものが多く、川西市の歴史・文化が知られていないのがもったいない。

市民が市の歴史・文化に誇りや愛着を持つことが大切であり、行政側としても、他市に情報発信するのではなく、まず市民に知ってもらおう工夫が大事だと思う。そうして市民が情報発信できるようになることで、市民が愛着を持ち、川西に戻ってきたい、ずっと住んでいたい繋がるのではないかと感じた。

情報発信の具体策として、

- ・ 漫画やゲーム、例えばカルタや将棋の中に「源氏」を取り入れて、小さい時から教育として行っていく。
- ・ 会話で川西市についての話のタネがない。いきなり市の歴史の話からするのではなく、お土産や特産品に「源氏」のことをプリントすることで話のきっかけになるのではないかと。また、三ツ矢サイダー記念館近くのコンビニや道の駅などに置くことでより地域性が強くなる。
- ・ 駅に観光案内所がない、看板が少ない、パンフレットが共有されていない、観光や文化財のガイドの利用に細かな規程があって利用しづらいという意見があり、これらを改善することで川西市に来た人はもちろん、市民に対しても親切だし情報発信ができると思う。

##### ナビゲーター総括

県外の人に川西を紹介するときに、「宝塚市の隣」ではなく「武家の発祥の地と三ツ矢サイダーの発祥の地」ということで、絶対に自慢できるし、その点の議論もできたと思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

また、「所詮大阪府民だ」という意見もあったが、退職後も長く川西市に住むことになるので、退職後の時間をどう使うかが重要だと思う。人口が増えている30代と9歳以下の子どもにどうアプローチするかという議論もあった。世代を超えて未来永劫川西市が続くように取り組んでほしいと思う。期待しています。

#### コーディネーター総括

文化・歴史の魅力を市民が感じ、次に外に広げていく仕掛けとして、市民が今まで以上に市の歴史・文化に誇りを持ち、その市民の誇りが市の魅力として市外の人に伝わり、川西に訪れる。観光で来てくれる時の受皿をしっかりと行う必要があり、その一つは宿泊場所の確保が考えられる。また、サポート隊を作り、市民から発信していく方法がいいのではないかと。発信方法は、SNS、カルタ等を使いながら発信していくことが必要で、いきなり歴史の話をするのは難しいので、ゲームや漫画を使い、ハードルを下げ、実はこんなにもいいものがあると知ってもらうことが大切である。行政の課題としては、資源は多くあるのにそれを上手くつなげられていないのではないかとということが提起された。きっかけづくりは、まだまだ少ないと感じる。駅前に案内板や観光案内所が必要ではないか。多田神社、加茂遺跡という文化財一つひとつに説明をつけて付加価値をつけると同時に、単体で取り上げるのではなく、様々な資源をストーリーでつなぐことで流れができて、それぞれの資源の魅力がより高まってくる。ストーリーやつながりをどう作っていくのかを、今後考えないといけないところだと思う。

### 協議の流れ

#### 1 第3回市民会議振り返り

川西市は清和源氏発祥の地、三ツ矢サイダー発祥の地ということは知っているものの、そのすごさが認識されていない印象であった。しかし、この会議を通じて、参加者がその価値を認識し、市民が市に愛着を持つことに活用できるのではないかと話が出てきた。活用については、ただ単に観光客を増やすことだけを目標にするのではなく、まずは市民が誇りを持つためのきっかけとして、文化や歴史を活用することが大切である。市民が歴史・文化の魅力を感じられるにはどうしたらよいか。今回は、どのように仕掛けを作っていくのかを考えていきたい。

#### 2 「改善提案シート」中間とりまとめについて

##### (1)文化財の魅力の再発見

文化財が川西の強みになっていない(川西を自慢できるものがない)、文化財への魅力の再発見が必要

個人の取組として、自分たちが知っていく、「まちの宝物サポート隊」を4班の有志で結成する提案。行政の取組として、漫画「川西の歴史」を学校の授業やイベントで活用、川西の文化歴史についてキャッチコピーの作成の提案。その他として、市の名前に「源氏」を入れるという提案。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

文化・歴史の知名度が低い、イベントなどが知られていない

個人の実組としては、色んなところに行って、周りの人たちに情報共有する。行政の実組としては、若い世代への PR として、小中学校での授業の充実、体験型イベントの実施、統一感のある案内板の設置の提案。

(2)文化財の活用

文化財が活用されていない

個人の実組として、足を運ぶ、イベントに参加する、話題に出す。行政の実組としては、能勢電鉄とのタイアップ（各駅での足湯の設置、タオルに源氏のストーリーをプリント、文化的な駅名が多いことを活かしたイベント、サイダー電車、割引券付き歴史巡り）の提案。

コーディネーターコメント

かわにし創生総合戦略推進会議に能勢電鉄の社長が参加されているので、4 班の議論について伝えている。能勢電鉄としてもやれることはどんどんやっていきたいという考えがある。例えば、すでに実施している能勢電ハイキングで川西の歴史を活用するなどが考えられるのでは、と言っていた。

多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳などの魅力を市民が再発見できるような活用を図る

個人の実組としては、多田神社の由来を知る、広める、三ツ矢サイダー発祥の地を広める、勝福寺古墳の整備のための寄付金を募る。行政の実組としては、池田市のカップヌードル記念館や千葉県のアンデルセン公園などの活用事例を参考とする、アサヒ飲料とのタイアップ（平野ジャパンサイダーの復活）、加茂遺跡を尼崎市の田能遺跡のように見学できるようにする提案。

源氏まつりが市全体の祭りと感じられていない

地域の実組としては、各地域から応募を積極的に呼びかける提案。行政の実組としては、祭りに幅広く参加できるように、出演者の人数割り当ての地域配分を工夫し、全市的な祭りへと示していく。その他の意見としては、地域の祭りでも良いのではないかという意見である。

(3)文化財の情報発信

歴史・文化のスポットの見せ方を工夫する

行政の実組として、インフォメーションを増やす、案内マップ、標識の整備、自販機を三ツ矢サイダー色で統一。その他、文化財を単に伝えても魅力を感じてもらえないので、「見て楽しい、おもしろい、体験できる」状況をいかに作り出すかが大切ではないかという意見である。

転入してきた人への情報提供（転入者をターゲット）

行政の実組として、転入者は必ず市役所に来るのでその時になにか案内できないかという意見である。

(4)川西の文化・愛着

市民が川西を大事に思っているか不安

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

住みやすいと感じているが、愛着にはつながっていないのではないか、という意見だが、行政の取組として、川西の文化とは何か？今回の市民会議のような考える場を作る。その他として、「文化＝歴史」ではなく、文化は生活や楽しみの要素が大きいので、これを組み合わせる必要があるという意見である。

歩きたばこやゴミのポイ捨てなどについて考え直す

個人の取組としては、歩きたばこをする人が多く、人が嫌がる行為でもあるので、やめるよう呼びかけを行う。行政の取組として、たばこ禁止のルール(条例)の検討、啓発活動の継続という意見である。

### 3 歴史を活かしたまちづくりについて

(ナビゲーター 富山県総合政策局地域振興・中山間対策室 参事・中山間対策室長 宮崎 一郎氏より説明)

「清和源氏は武士の全ての起源」

～歴史を活かしたまちづくりの経験からお話します。～

#### (1)清和源氏にまつわる話

##### ア 多田神社

・千年以上前、源満仲がどこに館を築こうかと思い悩み、摂津一宮の住吉大社に参拝し、「北に向かって矢を射よ。その落ちるところに居城とせよ。」とのお告げを受け、矢の落ちたところに行ってみると大沼の大蛇(九頭竜)に当たり、その当たった矢で、大は命を落とした。大蛇とともに流れ出た水の後には、よく肥えた土地が残り、多くの田ができたので「多田」と名付けられ、その地に、多田院(のちに多田神社)を創建したと言われている。

##### イ 清和源氏

- ・全ての武士政権の起源である。徳川家康も清和源氏を称している。
- ・多田神社には、徳川14代の歴代将軍の遺骨が分骨されている。(徳川慶喜以外)
- ・川西市の源氏まつりで行われている懐古行列には、清和源氏ゆかりの人物が登場している。

##### ウ 三ツ矢サイダー発祥の地

・三ツ矢サイダー発祥の地は川西市平野。九頭竜伝説の中で、満仲が放った矢を探し当てた男に三ツ矢の姓と三本の矢羽の紋が与えられた。また、満仲が鷹狩りに出た際に、近くの谷に湧く水で鷹が足の傷をなおして飛び立つのを目の当たりにした。これが、多田村平野の天然鉱泉で、この平野が三ツ矢という姓の発祥の地で、明治時代にこの故事にならい、湧き出ている天然鉱泉を「三ツ矢平野水(ヒラノスイ)」と名付けて発売したのが三ツ矢サイダーの起源である。また、三ツ矢サイダーのパッケージには九頭竜伝説にちなんで、9つの泡をあしらっている。

#### (2)富山県の事例紹介

##### ア 木曾義仲・巴御前 大河ドラマ誘致の取り組み

- ・平成19年度に長野・富山県知事懇談会で「源義仲 出世街道構想」を提唱したのが

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

きっかけ。

- ・41 団体が義仲で「広域連携推進会議」を作り協力している。
- ・富山県として大河ドラマ誘致のため歴史街道（雑誌）で投票や広告を行い、子供向け漫画の作成も行った。

イ 北前船について

- ・北前船の売薬商人の昆布ロードについて発信を続け、社会科の教科書へ掲載された。言い続けることは大切である。
- ・北前船のゆかりの地である新湊内川(日本のベニス)の活用（ロケ地誘致、古民家活用(オフィス・貸衣裳店・BAR・ホリデーマーケットや民家ホテル)）

(3)助言

- ・市外から来る人はわざわざ川西市に来た言い訳を探している。その人たちに対しては、「来てくれてありがとう」と感謝を伝えることが重要。市内の人にとっては当たり前でも、市外の人にとっては、当たり前でなく、感動的なものだったりする。
- ・まち歩きなどで、地域を知ること。知って勉強していけば愛着が生まれる。
- ・「源満仲」ゆかりの地名を探そう。(多田、清和台、矢間、鼓ヶ滝等)
- ・知った、探した成果をマップや漫画など成果物を作成し、公表しよう。
- ・小学生にも漫画を配架するなどして、川西市のシビックプライドを醸成しよう。
- ・源氏まつりの懐古行列で、巴御前の相方の義仲を加えると全国の義仲ファンが喜ぶ。

歴史を活かしたまちづくりについての感想及び意見

参) 富山県や兵庫県では DMO( )の申請がなされている。三田市では年間 15 万人以上の宿泊者数があるのに対して、川西市は宿泊者数 1 万人程度で宿泊先も石道温泉しかない状況である。最初に市民が誇りを持つことからスタートするが、最終的には観光につながると思う。その時「清和源氏」というのは観光資源としてこれ以外にないと思うのでどう展開できるか楽しみである。

DMO ( Destination Management/Marketing Organization ) 観光地域づくり法人  
: 地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

コ) まずは、市民が今まで以上に誇りを持つことが重要で、その材料として清和源氏が重要な資源となる。川西市の魅力が市外の人へも浸透していき、観光を展開していく中で川西市にその受け皿があるのかという意見ですね。

参) 大河ドラマ誘致の 41 団体に川西市も加えていただきたい。

参) 勝福寺古墳を川西市のシンボルとして整備していただきたい。

参) 寄付金を募ってはどうか。

参) 川西市を紹介するときに、示せるシンボルがまとまっていない。川西のシンボルをまとめた博物館をキセラ川西に作ってはどうか。

コ) シンボルについて、何でもいいから言い続けることが大切なのか、言うこととシンボルは繋がっていたほうがいいのか。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

ナ) 勉強すると愛着が湧く。愛着があったうえで自分のものとして言い続けられれば、良いと思う。好きになることが大切である。

歴史・文化の魅力を伝える手段、方法について

< 伝える方法 >

参) 改善提案シートの中間とりまとめに出ているサポート隊を作るのは賛成である。他の班とも連携できる。川西市を何とかしたいと思っているので、継続した取り組みとして実施するのがいいと思う。

参) キャッチフレーズがあればよいと思う。歴史に限定するのではなく、普段の生活につながるような内容が良い。

参) 伝える手段として手っ取り早い SNS での情報発信。ただし、SNS は、飽和状態になっていると感じる。SNS の波がきたと思ってからのっていたのでは遅いと思う。SNS はクチコミ要素が高いが、SNS だけにこだわらず、広報誌などで市民発信に力を入れることも大切ではないかと思う。また、次世代に対しては漫画等で発信していくのがいいと思う。

もったいないと思うのが、4年前に川西市で行った動画コンテストの作品を現在市役所で使われていないのは残念である。実施した以上は、活用方法まで考えて最後までやりきってほしい。

市民が使いやすいものは自ずと SNS 発信したくなるし、口コミも広がっていくと思う。知名度はないが、市民が満足している市は全国にたくさんあると思うが、そこが SNS 発信に力を入れているとは限らないと思う。

まず、市民の生活を満足できるものにしていくことが重要ではないか。観光で人を集めようとしても、道路がガタガタだと人は来ない。そういうところから手を加えていかないと、コンテンツを作ったとしても活きないと思う。

ナ) ハッシュタグで源氏を発信しまくる。( # 源氏ゆかりの地など) 先ほど紹介した「日本のベニス新湊内川」の例では、それまで「日本のベニス」と言えば柳川だったが、発信を続けているうちに新湊内川がそれを塗り替えた。また、動画はなかなか見てもらえないので作っても厳しいと思う。高山市は、市民が情報発信するのでプロモーションビデオを作成していない。

< 伝え方の工夫 >

コ) 清和源氏発祥の地であることを説明するときはどうしたら伝えやすくなるか。どんな工夫があるか。

参) 日本の歴史は武士がつくった。源氏と平家を組んで PR してはどうか

参) 川西市の歴史書を読みやすいようにして、無料で配布したらどうか。

コ) 前回紹介していただいた漫画本などの活用があげられると思う。

参) 漫画本は一般市民向けにわかりやすく作られていた。「知る」ことのおもしろさをいかに広めていくかが大切だと思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

- 参) 転入してきたばかりで、知人へ川西市のことをうまく紹介できなかった。多田神社や三ツ矢サイダー発祥の地など、歴史と結びついているすごい場所であることを、市民がもっと知れる工夫があればいいと思った。
- 参) 茨城県古河市では、「ふるさと古河(許賀)カルタ」というかるた遊びを通じて、古河市の歴史や文化財を学んでいる。この事例を参考に、次世代の子供たちが、川西市を知るツールとして、「川西源氏カルタ」みたいなものがあれば、遊びを通じて学ぶことができると思う。
- 参) ボードゲームや将棋の駒で「清和源氏」をPRしてはどうか。

<きっかけづくり>

- 参) 川西市らしいお土産や特産品があれば川西市に愛着が持てるし、周りにも紹介しやすい。
- 参) 普段の生活の中で、会話中でいきなり歴史の話をするものではない。何か話のきっかけになるような身近なものに川西ゆかりのイラストやいわれを書いて無料配布したりよく目に触れるところに設置するのはどうか。それをきっかけに川西市や源氏について話ができると思う。みつなかホールは、源満仲の名前と三つの村から川西市になっているのでそれをかけている、など物がないと話の材料にならない。
- 参) 駅に案内所や案内板がなく、市内の文化財や施設などがどこにあるのかわからない。
- 参) 観光協会が市役所の中にあることを問題提起したい。市内市外関係なしに、観光案内所は駅の近くに必要と思う。外に向けて行うことが市民に対して行うことにもつながるのではないかな。
- 参) ボランティアガイドの利用に、細かな規程(参加人数が5人以上、1か月前の事前予約等)があり、利用しづらい状況なので改善すべき。利用しやすくすれば、市民の活用も増え、歴史・文化に触れる機会も増す。
- 参) 文化財資料館の人気度を高めたい。子供にもわかりやすく、リピーターができるようなイベントが必要だと思う。バーチャルなどを活用しては。また、場所もわかりづらいので、キセラに移転してはどうか。話題にもなる。

<転入者へのアプローチ>

- コ) 川西の大きな特徴は、30代の転入者が多く、特に女性が実家の近くに戻ってくるのが多い結果となっている。そういう人たちに魅力をどう伝えていくべきか。
- 参) 市役所に転入届を提出した際、能勢電沿線のまちあるきマップを配布されたが、歴史文化につながりを感じるものではなかった印象である。
- 参) 川西へ戻ってくるきっかけは、治安が良いのが理由。また、地域の子どもたちが同じ幼稚園から高校まで一緒に通うことが多く、学校は公立なのに私立みたいな感覚と思う。また、交通利便が良く、自然が多いのも理由である。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

参) 川西市は発信が下手だと思う。自身に興味がないことでも、目に入れば興味を持ってもらえるかもしれない。人が集まるところをうまく活用して、市の様々な情報を発信していけばいいと思う。これから作る施設があれば、源氏を取り入れた施設とすることで、効果的にPRできるのではないかな。

その他

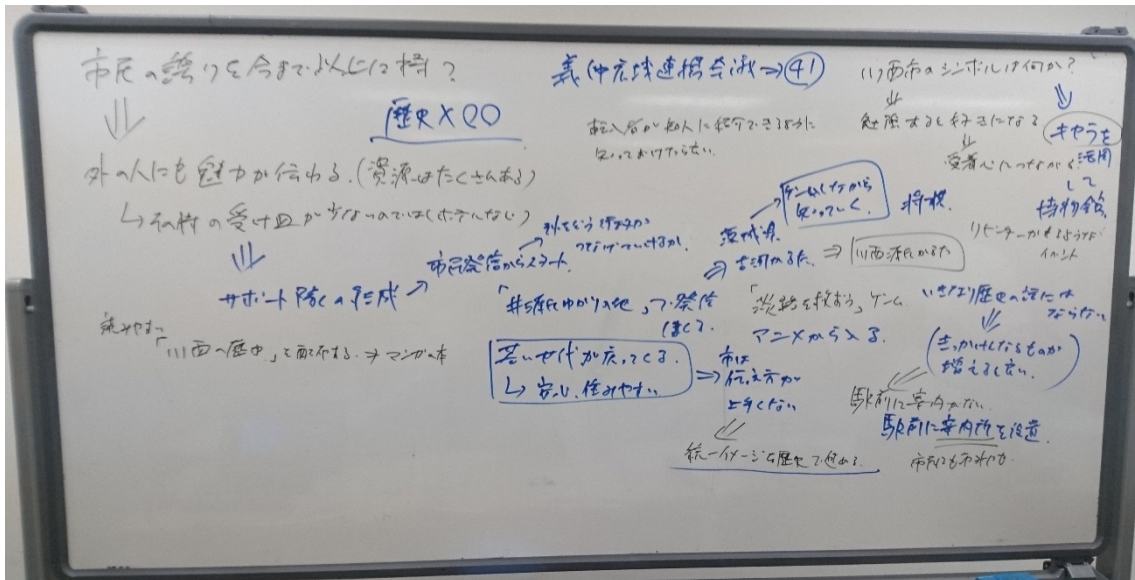
参) たくさんあるゴルフ場を利用者以外も使えるレストランやホテルとして活用する。

参) 皆さんの意見を聞いて本当に勉強になっている。また、このような会議を設定してくれて感謝している。自分の街のことを考えるいい機会になっている。

参) しっかりと川西市の財源が確保できる方策を考えてほしい。

参) 市内のコンビニに「猪名川のジンジャーエール」と宝塚市発祥のウィルキンソンソーダはあったが、三ツ矢サイダーは探してもなかった。市内のコンビニくらいには、置いてもらったほうがいいと思う。もっと発信する工夫をするべき。

ホワイトボードの写真



次回の会議に向けた準備

次回の会議の目標

なし

次回の会議に向け準備する資料等

・かわにし市民会議からの提案(案)

備考 (その他、記録すべき事項を適宜追加)

なし

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者